

タイトル	日本のアパレル業界の今後		
所属	南山大学 アジア学科	氏名	印田菜那

背景

近年、世界が不況に陥っている中で、特にアパレル企業にもその影響が及んでいる。その中で日本のアパレル企業と関連の強いSPA構造というものが増えている。

SPAとは企画から販売までを垂直統合させるものである。

SPA構造の特徴を知り、またユニクロなどアジア進出しているアパレル企業は多く存在するが、世界にはどう捉えられているのか、撤退することなくこの不況の中を乗り切らなければならない。

研究目的

- ・世界的な不況を乗り越えるためにすべき課題の発見
- ・SPA構造について考える
- ・日本のアパレル企業が世界で活躍するための課題の発見

日本アパレルメーカーについて

・ファーストリテイリング
ユニクロを運営する会社であり、世界アパレル専門店

2016年度売上ランキングでも第3位

・ユニテッドアローズ
収益性の改善にはネット通販売り上げの拡大が不可欠
と考えており、現在16%のネット通販売上構想を25~30%まで引き上げる考え

国内アパレルメーカー・小売の16年度通期業績ランキング

企業名	売上高	前年比
1 ファーストリテイリング <small>※2017年8月期第2四半期連結累計</small>	1兆175億800万円	↑0.6%
2 しまむら	5,654億6,900万円	↑3.6%
3 ワールド	2,575億3,700万円	↓7.4%
4 青山商事	2,527億7,700万円	↑5.2%
5 オンワードホールディングス	2,449億円	↓7.1%
6 アダストリアホールディングス	2,036億8,600万円	↑1.8%
7 ワコールホールディングス	1,958億8,100万円	↓3.5%
8 AOKIホールディングス	1,940億4,600万円	↑2.9%
9 TSIホールディングス	1,591億4,300万円	↓4.8%
10 ユニテッドアローズ	1,455億3,500万円	↑3.3%

研究方法

- ・論文、書籍の参考
日本のアパレル企業について、SPA業態について
- ・ネットや特集番組などの参考